

弘教寺

つづじ



第55号

発行所

〒370-0131  
伊勢崎市境米岡二七九-二  
浄土真宗本願寺派弘教寺  
寺報編集部  
電話 0120(七四)0573



寺のQR

## 澤孝子先生を偲んで

弘教寺住職 中山英昭

昨年5月急逝された浪花ぶしの澤孝子先生の追善口演が今年5月に浅草の木馬亭で開催されました。ご案内を頂き、坊守共々伺わせていただきました。

先生との出会いは二十年前近く前になるでしょうか。「中村久子伝」を口演されていた講師一龍齋春水先生の独演会が深川でありました、その際に友情出演され「徂徠豆腐」を人情味豊かに語って下さり、いっぺんにファンになってしまいました。

後日知りましたが、当時先生は日本浪曲協会の会長をされておりまして、毎年秋に放送されるNHK教育テレビの「東西浪曲選」では、いつもトリをつとめる浪花ぶし界の重鎮であることに、驚くと同時にさすがと思えました。

早速に春水先生を介して、弘教寺での口演会の依頼を致しました。澤先生からはお電話にてご快諾いただきました。

当時コンサートや落語会、講談会は経験しておりましたが、浪花ぶしは未経験です。どの様に準備したものか全く分からず、考えるよりも先生にお聞きしようとお電話します。話が出来る机一つ有れば良いとご返事を頂き、



安堵したことを覚えております。先生が来られた折りに「浪曲」と「浪花ぶし」はどう違うのかと尋ねたことがあります。

NHKでラジオやテレビで放送するとき「浪花ぶし」ではうまくなかったとのこと、「浪曲」はNHKの造語であることが分かりました。ついにながら「落語」が浄土真宗のお説教から派生したものであることから、浄土真宗の「節談説法」が浪花ぶしの源流ではないかと尋ねましたら、浪花で流行ったことというときりお答えは頂けませんでした。

澤先生の弟さんが熊谷市にいらつしやうって弘教寺の現総代長栗原政廣様と親友であることを後日知りまして、世の中不思議なつながりがあるものと感心させられました。

浪花ぶしの話を門徒さん方に話しますと、一応に懐かしいと言葉が返ってきました。私自身も小学生の頃に近くの川に遊びに行ったり近所の家から流れて来た「浪花ぶし」の洪い声が今も心に残っております。たぶん

当時一世を風靡した広沢虎造師匠(澤孝子先生は孫弟子)のラジオ放送の声であったように思います。六十年前のことが今も残像としてあることは不思議なことです。

孝子先生とのご縁が出来て過去4回口演いただきました。演目は「徂徠豆腐」「竹の水仙」左甚五郎「猫餅の由来」「赤い太陽」といづれも先生の話芸極まる名作の数々に来られた皆さんも懐かしさも含め、「良かった」のお言葉を多くいただきました。三味線は佐藤喜美江さんが担当され、語りを盛り上げて下さいました。先生の全幅の信頼を得ておられるほどの実力者です。前席にはお弟子の澤雪江さん、澤勇人(現広沢菊春)さん、澤恵子さんが各回演じてくださいました。口演会終了後はいつも新幹線の都合もあり、本庄市のうなぎ屋さんで打ち上げの会を持たせていただきました。お酒好きの先生のこと目を細めて生ビールを飲まれておられたお姿が懐かしく思い出されます。太いゴボウ天が気に入られ、毎回召し上がっていただきました。

足も悪くなられておられたので、早い段階で今一度お願いしようと思っておりましたが、3年というコロナ期間があったため実現出来なかったことは残念なことでした。

先日の澤孝子追善口演ではお弟子方が先生を偲びながら熱のこもった浪花ぶしを演じておられていたことが感じられ感動しました。お弟子の方々の益々のご活躍を念じ木馬亭を後にしました。先生有難うございました。

合掌

親鸞聖人御誕生850年  
立教開宗800年慶讃法要

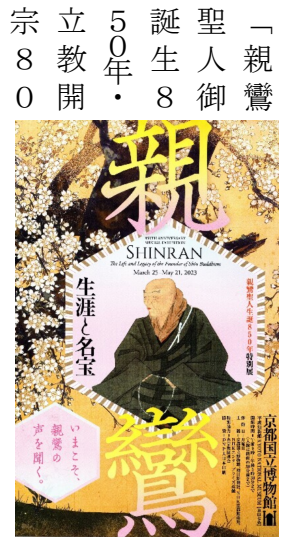
喜びの参拝旅行!



角坊参拝

涯での喜びとなりました。合掌 橋本勝

「親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要」は、50年に一度であり今年3月から5期30日間にわたってお勤めされました。私たちの弘教寺はコロナ感染で参加が制限される中、5月9日に14名での参拝ができました。この慶讃法要は、親鸞さまの「他力念仏のみ教え」に出遇えたことをあらためて喜ぶことにあるかと私は思いました。さらに今回は、真宗十派の真宗教団連合が特別協力された京都国立博物館での「親鸞聖人誕生850年特別展」親鸞―「生涯と名宝」を拝観できたことです。とくに、浄土真宗の根本聖典の『教行信証』坂東本・西本願寺本・高田本が国内で初めて集結されており、この目で観られたことは私の生涯での喜びとなりました。



「親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要」

60歳で京都に戻りますが、これからますますすごい精神力と努力で、90歳まで活動できる体力があつて多くの人にみ教えを説かれ、浄土真宗は広まっていって思っています。私も5月に墓の修理をし南無阿弥陀仏と刻みましたところ心がすつきりとなり、親鸞聖人に感謝です。



親鸞聖人御誕生850年 立教開宗800年慶讃法要 参拝記念

5月8日・9日に初めての京都西本願寺参拝の旅に参加。8日は本願寺角坊・二条城を見て回り、金地院では長谷川等伯のテナガサルの襖絵を手取るように近くで見感動をします。9日はご満堂の御影堂での慶讃法要を参拝し感激しました。京都国立博物館で親鸞聖人のゆかりの品々を見てその偉大さを知らされました。親鸞聖人は35歳の時流罪となり新潟へ追放され、赦免の後関東へ、茨城を中心に布教に専念されます。どんな時でも阿弥陀如来のみ教え「南無阿弥陀仏」と念仏を称えればすべてが救われる浄土真宗の教えを説かれました。厳しい時代環境の中で念仏一つで救われていくという聖人のみ教えに人々が導かれ、教えが継承され、今の浄土真宗になったのだと思います。

初参拝の記(1)

平田文司

5月8日出発、故郷熊谷の両親の眠る寺近くを通過する時、本山へ行くんだよと念じました。京都では、角坊、二条城、金地院の参拝と見学。ホテルの美味しい食事に満足しました。翌9日はいよいよ本山へ。御影堂での法要参拝、想像以上に思わず涙が溢れました。全国からの人々の幸せそうな姿に触れ、先祖様への私の願いがかなった時間でした。京都国立博物館で親鸞さまの「生涯と名宝展」を見学。書写の会の勉強に意欲が増しました。京都の空を見上げ、人と人の心が通いあった充実した旅、本山スタッフ、弘教寺の皆様に変お世話になり感謝しています。もう一度本山を訪れる日を楽しみにお念仏の日々を過ごしたいと思います。合掌

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要の西本願寺参拝の旅、初めての京都は夢のような二日間でした。一か月前に体調を崩し参加は無理との医者言葉に驚いて、住職様に参加を伝えられた後、子どもたちに報告しました。すると、「何んで相談しない、毎日楽しみにしていたのに。何が起こつても俺たちが対処するから。」と叱られ、悩んだ末にSさんに相談し寺に伝えてもらいました。翌日、参加可能と連絡を受け、住職様とSさんの配慮のお蔭で生涯忘れることの出来ない思い出ができました。感謝しています。

初参拝の記(2)

宮崎さと子



飛雲閣にて



## 壮年会開かれ

根岸定明

コロナの位置付けが「5類」に移行される中、5月21日に壮年会総会が開催されました。開催に先立ち蓮照寺住職松岡満優先生の「釈迦、弥陀は慈悲の父母：今日という日に命あること不思議」の講題でお話をいただきました。

総会は式次第に従い、ご住職の挨拶の後、皆勤賞の発表があり、11名の方が表彰され住職から記念品が贈呈されました。続いて、前年度決算報告、令和5年度行事計画案について、審議され承認されました。

今年度の特別行事として「瀬越憲ファイナルコンサート」が、11月4日(土)に予定されています。また、主な行事として12月には「報恩講法要」「餅つき大会」等もあります。皆様のご参加をよろしくお願いいたします。

昨年は、婦人会創立50周年に併せて、壮年会25周年記念式典も開催することができました。心から感謝を申し上げます。



今年は、壮年会活動も新たなスタートを切り、次の30周年に向けた新たな歩みを進めていく年となります。どうか皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

今夏は例年にならない猛暑が予想されています。どうかお身体ご自愛のほど念じあげます。

## 仏婦会長就任にあたって

佐々木祐子



昨年の10月には、婦人会創立50周年の式典が開催されました。これまで長い間、婦人会活動を続けて来て下さった諸先輩方の努力の賜物と敬服し感謝申し上げます。誰もが外へ出て働く時代となり高齢化も進む中で新しい会員を増やしていく事は、今後の課題です。

さて、5月の総会には、例年通り収支決算報告、年間行事計画が話し合われました。また、役員が改選され、6年間活動された前会長の泉様より、未熟ながら婦人会会長を引き受ける事になりました。今年度は、次男の眞悟様が京都より戻られ、長男の大悟様と共に何ごとにも優しく俊敏に行動して下さい、会員皆様とも感謝しております。

これからもご住職様、坊守様、会員の皆様のお力添えを頂きながらご聴聞を第一に楽しい婦人会となる様努力してまいります。ご協力よろしくお願い致します。

合掌

## 会長退任にあたって

泉昌子

平成29年前任の野水会長より身の引き締まる思いで弘教寺婦人会会長を引き継ぎ、6年間皆様のご協力を頂き、今年春無事務め終えることができました。深く感謝申し上げます。

令和3年には、「携行本尊」を求めたことが本願寺新報に掲載され、書写の会も紹介され

ました。昨年は弘教寺仏教婦人会創立50周年を迎え式典が盛大に行われ、総裁大谷流豆荚様よりお祝いのお言葉を頂きました。

今後も仏婦活動を通じて、ご聴聞を大切に生きていきたいと思っております。

合掌

## 音御堂に参加して

おとみどう

6月23日、弘教寺仏婦コーラスひまわりの有志7名が「音御堂」築地本願寺第12回東京教区コーラスのつどい」に参加してきました。教区内の7団体のグループ発表、オペラ歌手廣澤星花さんのゲスト演奏、参加者全員による全体演奏の3部構成でした。

弘教寺仏婦として、初めて全体演奏のステージに立ちました。

「あなたがいるからあったかい」から「弥陀大悲の誓願を」

まで6曲の仏教讃歌を歌いました。味わい深い仏教讃歌が15名の歌声となつて本堂いっぱい響きました。

阿弥陀さまの懐に抱かれて歌う喜びと感動の時間をいただきました。

合掌 坊守



音御堂QR

京都く群馬ぶらり自転車旅(1)

私が京都から弘教寺まで自転車で帰ろうと思いついたのは、大学二回生のころ、なんとなくそうしようかな、と思ったのが始まりだった。もともと高校時代からママチャリで片道四十五分の道のりを毎日走っていて、京都に移ってから自転車移動すること自体が趣味のようなものになっていた。



自転車を漕ぐ中で、好きなことが二つ、嫌いなことが一つできた。好きなことの二つは、ゆったりと自由に好きな道で様々な景色を楽しむことができること。もう一つは、怖くない程度のスピードでも十分に風を切る気持ちよさが味わえること。嫌いなことは、山を登ることである。京都市内を走る時も、和歌山、徳島、名古屋、兵庫等へ自転車で遊びに行くときも、なるべく山が少なく、スピードが出しやすく様々な景色を楽しめるルートを選びをした。そんなことをしていくうちに、京都から群馬まで自転車で行くことも可能ではないかと思えてきた。東海道側を通れば大きな起伏は箱根の山一つで、なおかつ各都県の中心地を通りながら進むことができる。学生生活の締めくくりとして最高の旅といっても差し支えないのではないだろうか。そうして現実味を帯びたことで、この京都群馬間自転車旅が始まった。

中山真悟

郷土のこぼれ話④ 境中島の「流死靈魂位」の碑

240年前の天明3(1783)年浅間山大噴火が起りました。旧暦7月8日、



前日に続く大噴火が大規模な土石雪崩を引き起こし、熱泥流がふもとの村々を呑み込みながら吾妻川へ利根川へと流れ下りました。これは「天明の浅間焼け」と呼ばれ、1500人を越える人命が失われたといえます。遠く離れた境町でも数日前から地震や降灰が続いた後、8日午後2時頃から夜にかけて利根川へ一度に泥流が押し寄せ、多数の人馬家財が流されてきました。この時、中島村の人々は36人の流死人を拾い上げ、薬師堂の墓地に手厚く葬り、「流死靈魂位」と刻んだ石碑を建立して供養しました。今でも流死人の供養を通して孀恋村鎌原地区と境中島地区との交流が続いているそうです。

また、「浅間大変記」によると、田畑には噴火で10cmもの焼砂が降り積もり作物は立ち枯れ農家の困窮甚だしい大飢饉となりました。現在、赤堀歴史民俗資料館では、8月27日まで「天明3年」を語り継ぐ、「浅間山大噴火」の企画展が開催されています。

異常気象や地震などが頻発する昨今、先人の体験に学んで、私たちは何をすべきか今こそ考えてみたいものです。

坊守

編集後記

令和5年のコヨミが半分を過ぎました。時は正確で、私達に平等に刻んでおります。それを早いとか遅いとかと感ずるの私達です。これは育った環境と経験の中で脳が学習をして、この私を自己中心とした生き方にしていくものと思います。この自己中心の生き方をあたりまえにする人ほど、苦悩が絶えないものであると、ある法座で聴聞させていただきました。自己中心の生き方を少しでも見つけました。自

橋本勝

◆ 行事予定 ◆ 令和5年 8月 ~ 11月

月別	弘教寺の行事予定		教区・群馬組の行事予定	
8月	15日(火)	合同お盆法要	13日~16日	お盆
	21日(月)	婦人会例会		
9月	10日(日)	壮年会例会第3回	18日(月)	千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要 秋彼岸
	28日(木)	婦人会例会		
10月	1日(日)	前住職43回忌・前坊守17回忌		
	20日(金)	婦人会例会 予定 弘教寺ゴルフコンパ		
11月	4日(土)	瀬越憲コンサート		
	11日(土)	壮年会例会	11日~16日	築地本願寺報恩講
20日(月)	婦人会例会			